

(2) 教師との関係を高める具体的な手だて

すべての児童生徒が有意義で充実した学校生活を過ごすために、教師は教育活動全体を通して児童生徒へ安心感を与え、信頼されるように努めなければならない。なお、教師との関係はすべての教育活動が対象となることから、教育活動(例)を省き、具体的な手だてとして、「ア ポイント」、「イ 場や機会」、「ウ 教師との関係を高めるかかわり」について具体的に示すこととした。

ア 教師との関係を高めるポイント

◇ 児童生徒一人一人に関心を示す。

児童生徒は、教師が自分に関心をもっているか否かということに敏感に感じている。児童生徒が認められたと感じたとき、教師に親しみを持ち、信頼感を抱くようになる。

◇ 共感的な理解に心掛け、誠実な態度を示す。

児童生徒の気持ちを受け止め(受容)、児童生徒の心を感じ取る(共感)。状況によっては、児童生徒と正面から向き合い、非は非として指導することが求められる。

◇ 児童生徒を肯定的に受け止める。

児童生徒一人一人を「かけがえのない存在」、「自らよりよく成長するもの」としてとらえる児童生徒観に立つ。教師が肯定的な見方をするほど、教師の姿勢や態度は自然に児童生徒に伝わっていく。

◇ 児童生徒一人一人に積極的にかかわる。

児童生徒に対して「声を掛ける」、「微笑む」など、児童生徒の自己存在感を高めるために働き掛ける。児童生徒への積極的なかかわりが安心感を与え、学級全体への雰囲気づくりにもつながる。

◇ 教師自身が自己開示をする。

児童生徒と教師が心を開いて安心して語り合える関係になるには、まず、教師自身が心を開いて、率直に話すことが必要である。教師が自己開示することは、児童生徒の自己開示を促す契機になる。

イ 教師との関係を高める場や機会にするために

日常の場面

- 健康観察では「風邪は良くなりましたか。」などの温かい声を掛ける場や機会を設ける。
- 誕生日を迎えた児童生徒を祝う場や機会を設ける。
- 帰りの会やSHRで、一日の頑張りを認める場や機会を設ける。また、困っていることも出し合える雰囲気をつくる。
- 登校・下校の際に、気持ちのよいあいさつやハイタッチ、握手など教師に親しみをもたせるために発達の段階に応じた演出を心掛ける場や機会を設ける。
- 休み時間など、児童生徒だけで活動している時の表情や言動、相互のかかわり合い方を観察する場や機会を設ける。
- 廊下ですれ違った時に、「調子はどうかな。」など声掛けをしたり、微笑んだりして安心感を与える場や機会を設ける。
- 給食時には、児童生徒と一緒に食事をし、教師自ら明るい話題の提供や楽しい会話を心掛け、和やかな雰囲気づくりを行う場や機会を設ける。
- 一緒に掃除をしたり、給食の準備をしたりして、児童生徒に寄り添うように心掛ける場や機会を設ける。
- 「今頃どうしているかな。」など欠席した児童生徒の心に寄り添った言葉掛けや教師の思いを語る場や機会を設ける。
- 児童生徒の気になる言動は見逃したり、見過ごしたりせずにその場で声掛けをし、必要に応じて後で指導・援助をする場や機会を設ける。



授 業

- 指導法の改善に努め、授業の充実を図る場や機会を設ける。
 - ・ ティームティーチングや少人数授業、習熟度別授業など能力に応じた指導
 - ・ レディネス調査を活用した実態に応じた授業（教材・資料の工夫、体験活動、発問の工夫）
- カウンセリングマインドに立つ授業を展開する場や機会を設ける。
 - ・ 相互に認め合い学び合う場の設定、児童生徒の間違いや失敗を生かす対応、児童生徒を勇気付ける対応
- 道徳の時間やLHRでは、教師も適宜自己開示しながら、自己受容が図られる場を設ける。

学年・学校行事

- 定期教育相談をする場や機会を設ける。
 - ・ 児童生徒のよいところや興味・関心のあることを話題にしながら、教師とのリレーション（良好な関係）づくりを行う場や機会を設ける。
 - ・ 「辛いけど頑張っているんだね。」など温かく見守る姿勢で悩みを聴く場や機会を設ける。
 - ・ 悩みがあっても児童生徒から話そうとしない場合には無理に心を開かせようとしない。
- 呼び出し相談をする場や機会を設ける。
 - ・ 児童生徒の立場で気持ちを十分聴いてから教師の立場で指導や援助を行う場や機会を設ける。

ウ 教師との関係を高めるかかわり

○ 教育相談の技法を生かしたかかわり方

- 児童生徒の話最後まで割り込まずに聴く。
- 「ながら聴き」をせずに、相手の方をしっかり見て話を聴く。
- 意識的にうなずいたり、相づちをうったりする。
- 同意できない意見や考えを話されても、穏やかな表情を保つ。
- 話の「内容、中身」だけでなく、そこにある「感情、気持ち」についても意識して聴く。
- 賛成できない意見や考えの話になったとき児童生徒が話している最中から自分の反論をしない。
- 何か返事をする前に、「児童生徒はなぜ、そう言ったのか」と児童生徒の事情や気持ちを考える。
- 児童生徒の話の内容が自分の意見と異なっても、復唱したり言い換えたりしながら、確認して相手の意見を自分の意見として言う。
- 児童生徒の反応やその場の空気を敏感に感じ取るように気を付ける。
- 「自分の気持ちや感情」を理解してほしいと思っている児童生徒に対しては、理詰めで対応しない。
- 課題に対しての評価を確実にする。
- 「私だったら…」、「私は昔…」と自分の話を引き出して反論しない。

○ 教師の態度や姿勢を見つめ直すチェックポイント

- 自分からあいさつをするようにしていますか？
- 明るい表情やさわやかな笑顔で人と接するようにしていますか？
- 教師として毅然とした態度でリーダーシップをとろうとしていますか？
- 教師として適切な言葉遣いや行動をしようとしていますか？
- 児童生徒から親しみをもたれていますか？
- ユーモアを心掛け児童生徒の前に立っていますか？
- 休み時間や昼休みなど、児童生徒と一緒に遊んだり、話をしたりしていますか？
- 児童生徒の雑談の中に自然に入っていくことができますか？
- 児童生徒が好きなテレビ番組や雑誌、ゲーム、音楽などの情報を得よう心掛けていますか？
- 一人一人のよいところを積極的にほめるようにしていますか？
- 一人一人の個性に応じた声の掛け方や叱り方などを心掛けていますか？
- 一人一人に公平に接するように心掛けていますか？
- 自分の考えや気持ちを上手に伝えるように心掛けていますか？
- 児童生徒の無理な要求に対して、冷静に対応しようと心掛けていますか？
- 間違った行動のとき、頭ごなしに注意することなく、納得してもらえるように話をしていますか？

